

## 会議録（概要）

名称	令和6年度 第2回市民協働推進委員会
開催日時	令和7年1月24日(金) 午後6時00分～午後7時30分
開催場所	阪南市役所 3階 全員協議会室
出席者	【委員】吉田委員長、有田副委員長、佐渡委員、藤本委員、上瀧委員、戸田委員、清末委員 7人出席 【市】政策共創室 御坊谷室長、吉岡主査、根来総括主事
傍聴人数	1人
議題	○継続事業の取り扱いに係る各所への説明について ○令和6年度 市民協働・共創事業提案制度の審査結果について ○市民協働・共創事業提案制度 様式の一部改訂について
資料	資料1 市民協働・共創事業提案制度（継続事業）の取り扱いについて 資料2 令和6年度 市民協働・共創事業提案制度の審査結果について 資料3 市民協働・共創事業提案制度 様式の一部改訂について 参考資料1 令和6年度 阪南市市民協働・共創事業提案制度 提言書 参考資料2 今後の予定について
会議	<p>継続事業の取り扱いに係る各所への説明について</p> <p>事務局 継続事業の取扱いに係る各所への説明について、資料1に基づき説明。</p> <p>（各委員からの意見、質疑・応答）</p> <p>委員長 これまで採択されて実施している事業についても、3年を1つの区切りにするという話ですね。 また、今回事業期限を設けることで、1つの区切りとして、事業を見直す機会になってよかったなみたいな、割と前向きな反応だったという話ですね。 実施団体さんの方でご質問があったとか、この点はちょっとみたくないそんな話ございませんでしたでしょうか。</p> <p>事務局 もともとやりたかった形の事業ができずに現状、当初の想定とは違った形の事業になってるということがあり、事業をもう一度見直すことも含めて考えてもいいのかなという感触だったので、特に今回期限を設けるということに対しての不満や否定的なご意見というのはなかったという印象です。</p> <p>委員長 事業を実施していくうちに様子が変わっていくことはあり得ることだし、必ずしもそれが悪いことではないので、そういうことも含めて1つ区切りをつけて振り返っていただく、或いは位置付けをもう一度設定し直していただくそういう良い機会になるという、前向きな効果があるんだと思います。 それでは、これに関しては特段、ご意見もなさそうですので、次に進めたいというふうに思います。</p> <p>【令和6年度 市民協働・共創事業提案制度の審査結果について】</p> <p>事務局 令和6年度 市民協働・共創事業提案制度の審査結果について、資料2に基づき説明。</p> <p>（各委員からの意見、質疑・応答）</p> <p>委員長 結果としては残念ながらというような不採択という結果になりました。ただいまの説明に関して、ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。</p> <p>委員 不採択になった後、再度検討してもらうにあたっては、提案団体だけで検討を進めていくんでしょか。フレッシュアップしていくのに、市民活動センターからの紹介等で、例えば他の団体と意見交換をする場などはあったりするのでしょうか。</p> <p>事務局 まずは提案団体と事業担当課での協議ということで考えています。しかしながら、今後ケースバイケースで市民活動センターにお繋ぎする等は検討できるのではないかと思います。今回、このようなご提案がありましたことは共有させていただきます。</p> <p>委員 市民活動センターとしては、今回の提案団体に限らず、団体同士の交流というものを常日頃からやろうとしているところなので、そういった場合に参加していただいたりとか、人生100年大学の方々が、そこに参加していただいて、情報共有していただくという場を設けていただければと思います。</p> <p>委員 そのような取組があることは、提案団体はどこを見たらわかりますか。</p> <p>委員 広報にも掲載しますし、あとSNS等の発信もします。交流会の場合は、大体2ヶ月前ぐらいから準備を始めますので、まず広報に載せるというスケジュール感となっています。</p> <p>委員 何団体程度来ているのでしょうか。</p> <p>委員 おおよそ7～8団体程度にお越しいただいています。</p>

委員	それは稼働している団体の何割程度になるのでしょうか。
委員	登録してる団体と稼働してる団体とまた違うんですけども、登録団体が88団体あります。登録更新の際に団体の稼働状況をお聞きするんですけども、止まっている団体が非常に多くなっています。具体的な数字というのがちょっと今の状態でお答えしかねます。団体名が違うけど同じ人が動いてあったりするんで、明確に今、実際動いている団体っていうのは、今ちょっとここで数字でお答えするのが非常に難しいかなと思います、割合としたら非常に少ないです。お声掛けできる団体にはすべてお声掛けさせていただいて、参加可能な方が、その7～8団体っていう状態になっています。来ていただく方々の交流は、どんどん輪が広がってるかなとは思いますが、なかなか参加者が少ないという現実です。
委員	わかりました。ありがとうございます。
事務局	資料として夢ブラザだよりもお配りしていますが、開けていただいて3ページの下につなぐ・つながる交流会というものがございます。そこに提案団体の方も来られて、こういうことしていきたいと思うといった感じで交流はされましたので、こういった団体で交流する場もございますので繋がっていくきっかけ作りになっていくんじゃないかと思えます。また情報発信につきましても、創意工夫していきたいなっていうのは考えておるところです。
委員	こちらのつなぐ・つながる交流会につきましては、登録団体以外の方も参加していただいた形となります。なので、さきほど委員の方から登録団体についての数字を質問いただいたんですけども、このつなぐ・つながる交流会の中には、登録団体以外の方も含まれているということだけ補足させていただきたいと思えます。
委員	交流というのは、勉強会みたいなことをしたあと、コミュニケーションを取る場のようなものはあるのでしょうか。
委員	講師を呼んで、勉強会していただいた後に名刺交換であるとか交流の時間を多く設けております。
委員	提案してくれた団体等にこういう場があるというのは、個々にお伝えとかはあるのでしょうか。もう広報みて下さいみたいな感じなんですかね。チラシ配布などはあるのでしょうか。
委員	今回、個別にチラシの配布等はしていませんでしたが、ご参加いただけました。
委員長	委員の方から、提案やご意見というのはありませんか。こういう不採択になった団体が出たことについて、その後のフォローアップや、その後の展開そのままじゃもったいないっていうのが、背景にあつてのご質問だったと思います。できるできないは別にして、何かアイデアとかご意見とか、アドバイスがあればお願いします。
委員	教育の学び意欲ってすごいすてきなことだと、すごいなと思ったんです。年齢等の関係なく、学ぶ場があったらいいなってすごい思ったんです。アイデアはめちゃくちゃできるけど、人との繋がりがわからないとか、運営をするのが苦手とか、人も得手不得手ってやっぱりあると思うんです。そこで、得意な人・団体とか、つなげるところがあっていいなと思ったんです。アイデアはないけど運営がうまい人とか絶対いると思うんです。その紹介が多分、担当課や担当者の情報だけになってしまうので、もっと広く情報共有できる場があったらいいなあと思ったんですけど。
委員長	プレゼンを聞いても、それぞれのメンバーの方の活動ぶりなんか拝見するとなかなか力のある、やる気もあるということだったんですけども、逆にそれが、まとまりのなさとか、これから話し合いながら作り上げていくんですというふうにもとれました。ある意味良い姿ではあるんだけど、公金を投資して事業をするということを踏まえると、ある程度カリキュラムみたいなものが定着しないと、トラブルの元になるんじゃないかっていう懸念もありましてですね、もうちょっと練ってくださいという趣旨で、再度検討をお願いしたいと、そういう判定でした。副委員長、何かございますでしょうか。
副委員長	委員長のおっしゃった通りとても課題認識もあるし、目的も明確で、模範とされた江戸川総合大学のこともすごく勉強されていて、カリキュラムも作られてるんですが、やりたいことが多すぎて、盛り込みすぎておられる印象を受けました。その授業の組み立てが、構成メンバーの団体の人たちがやりたいことをやるというようなものでした。まちづくりだったら阪南はこういう課題があるからこういう取組み方をして、まち歩きとかワークショップをしながら課題解決をし、次にはなんなん人生大学の目的は学ぶことから、活動する、担い手を作っていくってことなので、その段階の構成になってなかったっていうところがとても残念でした。もう1つは委員長も今言われたように、実行委員会がたくさん団体で集まっておられるんですけど、事務局となる団体に専従の人の配置がなさそうで、学習者さんを募集したりオンラインとリアルでやろうとしたら、多様な年齢層の人が学ぶというようなことか或いは受講料を取る場合もあったりすると、とても事務作業が現実継続してやっていける体制でないと難しいと思ったので、運営体制の検討がまだ不十分だったんじゃないかなと思いました。委員がおっしゃるように、今回の提案団体は熱意とかネットワークとか持っておられるので、マネジメントに長けた人をどこから協力を仰いで、メンバーになってもらって、一緒にやっていくっていうことができればいいなと思ってますし、市への回答もそうなってます。で、もう1つあえて付け加えるならば、私はこの市民協働・共創事業提案制度の課題として、行政側の提案が余りにも絞りすぎてしまったりとか、市民団体ならではのよさを柔軟に発揮できるものじゃなかったのですが、今度のこの公民館のは、割といろんな問題意識のもとに学びの場を作って、担い手を作っていくこういうもので非常によかったんで、ぜひ協議の場を設けてくださいということになっているので、この人生100年大学の構成を固定化しないで、様々な強みをもつ個人も含めていろいろ関わってもらいながら、やっていかれたらいいなと期待しているところです。

委員長	結果としては不採択ということにはなりましたが、かなり前向きな期待を込めて不採択とさせていただきますということで、3月から直営事業として実施とはあったのですが、何らかの形で今回の提案団体、或いはその構成メンバーの方たちが絡んで実施されることを期待したいなと思います。
【市民協働・共創事業提案制度 様式の一部改訂について】	
事務局	市民協働・共創事業提案制度 様式の一部改訂について、資料3に基づき説明。
(各委員からの意見、質疑・応答)	
委員長	従前の様式では、提案団体のほうでその費用に関して、委託費と補助金、それぞれを区分して書きなさいということになってたのですが、委託と補助とどう違うんだってところの区分を、最初から提案団体の方に書いてもらうっていうのは無理があるんじゃないかということもあり、最初は委託費補助金っていうのを区分せずに、ざっくりした金額で提案してもらうと、そういう様式に直しましたということですね。 お手元に資料3があるかと思うんですけども、ここにイメージが書いてます。委託費というのは基本的には、市がやる事業に関して、その費用を団体にお渡ししてやっていただくというもの。それに対して補助金っていうのは、団体が主にやられる事柄に関して、市の方がサポート・応援しますというもの。すごく似てるけども異なる点もあり、場面によっては大きな意味を持つ場面もあるので、そういったテクニカルな部分に関しては、やはり公金を使うということもありますので、担当課と協議しながら決めていきたいということになります。この点についていかがでしょうか何かご質問とかご意見ございますでしょうか。
委員長	特にご意見なさそうなので、これで進めていただきたいと思います。
【その他について】	
事務局	阪南市市民活動センターからのご案内について、当日配布資料に基づき説明。
委員長	何かありましたらご意見をお願いします。
委員	掲載されている「はれときどきぶた」の劇について、大人の目線で見てもすごく演出がよかった。活動センターの周りにはものづくりされる方もいらっしゃると思いますので、ぜひご覧いただきたいなと思います。
事務局	地域力支援研修「地域まちづくり自慢大会」について、当日配布資料に基づき説明。
委員長	地域まちづくり協議会というのを阪南市でも作っていかうと、その機運を高めるということもあって、盛んに活動されているところをいくつか自慢していただくとうと、そういうようなお話です。何かこれについてご意見とか、この際ご質問とかございますでしょうか。
委員	祭りのことで、担い手がいなくなってきた教室っていうのは、いつどこでやっているのでしょうか。
事務局	自然田の方で、そういった伝統芸能を継承という堅いのですが、笛とか太鼓の練習をされるそうです。そういった写真がございまして、住民センターで定期的にやっておられるということで、発表をされておられました。
委員	地域によって全然違うらしいんですけど、そういうのも全部してくれるのでしょうか。
事務局	自然田の地区ではこういうことしてらうと報告されてました。全市でっていうよりその地域でと報告いただいたところなんです。
委員長	地域によって鳴り物が違うというお話でしたけど、どう違うのでしょうか。
委員	詳しくわからないですけど、地区ごとに何か独特のものがあって、他の地域では全く違うものであったりするようです。あと、今の時代に合ったようにアレンジしていかうって方がいらっしゃるんですけど、やはり旧村の場合はアレンジしてくれるな、ていうところがあったりとか、そんな感じで地域によって、祭りに対しての思いであったり、継承したいものであるっていうのは、本当に地域によって違うと思います。
委員	まちづくり協議会ね。立ち上げつつあると思うんですけど。今どのような段階まできてるんですかね。
事務局	今ご検討されてるのは、舞地域ではあるんですけども、舞校区ミライ会議ということで既に会議組織がございまして。昨年、月2回市職員も出向いて、情報共有させていただいております。ただ現状としましては、何か新しいものを作らないといけないみたいな先入観を持っておられる方もいらっしゃいます。本来、市内には校区福祉委員会であるとか、すでに活動されている組織がありますので、そういったものを改めてこういう条例で位置付けていけたらいいのかなとは思っておるんですけども、抵抗がある方もおられたら、こうしたらいいんじゃないかなというところでちょっとまだ議論の方が進んでいないのかなっていうところもございまして。ただ一番議論されてるのは舞地域かなというふうには思っております。

委員	私は校区福祉委員をやっているんですけど、校区福祉委員会にしても、自治会にしても、担い手がないんですね。検討中検討中でなくて、もうここ数年で、何か具体的に進めるような状態に持っていけたらどうかというも気になっている。今、活動している人たちがあと何年、元気にいけるかというも時間が限られているんです。だから、具体化するのを早める必要があるかなと思うんです。難しい部分ありますけど、でないといろんな団体にしても、もう本当に後継者がいない状態です。形を変えて、何とかみんなが1つの固まりになるために条例化は必要と思います。
委員	阪南市はやぐらが有名なので、そのような地域に根づいてる、皆さんが1つになって取り組める行事や伝統的なものは継承されるべきだし、おそらくそういう伝統的なものの継承のコミュニティの中で、まちのことを考えてくれる子どもたちを育てたりとか、若い世代が阪南にもっと興味を持ってくれるであったりとか、テーマが必要なのかなっていうのもあったりと考えます。おそらく町のことを考えようというテーマで、なかなか若者って動かないのかなとか思ったり、それだったら自分の興味のあるテーマで何かを習ってみる、学習の機会だったりとかが必要だと思います。新興住宅地もオールドニュータウン化してしまっってコミュニティや若い世代の入ってくるものがなくなってきてる中で、若い人がどこに引っかかるかっていうことを考えていけるような、地域まちづくり協議会もそういう若い世代、子育て世代とかが一体何に興味を持ってたりとか、どういうライフスタイルを送ってたりとかっていうことを、研究する中で、ターゲットを絞って、そういうテーマ型の何かイベントをやったりコミュニティを作ったりっていうことが、僕は必要なのかなと思います。
委員	こういうことを取り組んでいるっていう発信、どの層にも届くような広報・周知っていうところが必要なのかなと思います。例えば小学校とか中学校とかで、こんなことを阪南市でやるよっていうことがあれば、子どもたちが成長したときにも、こういうのをちょっと取り組んでみようかなとかそういう機運になってくると思うので、もちろん短期的な施策も大事だと思うんですけども、そういう中長期っていうところでも、周知していく必要はあるのかなと感じました。
委員長	近頃の若い方の情報収集源はテレビとかよりもSNSとかYouTubeとかかと思いますが、そのあたりはどうでしょうか。
委員	SNSが多いと思います。例えば10代20代の女性の方なんかでは、旅行先を探すにあたって情報源としてInstagramが1位になってたと思います。そういう状況ですので、SNSの発信も重要になると思います。
委員長	漠然とまちづくり、次世代、後継者という目線でも若い人たちは食いついてくれないんで、何かイベントなり、テーマを絞り込んで、もうちょっと食いついてくるようなことを、SNSなんかを通じて発信していくっていうのが若い人たち向けには基本のやり方になっていくのじゃないかな。問題はそこの担い手ですね。あと、この地域まちづくり自慢大会っていうのは、定期的には実施しているのでしょうか。
事務局	年1回は開催していきたいと考えています。自治基本条例推進委員会からも、条例の説明会だけでなく、もっと地域に出てコミュニケーション取っていくであるとかしていった方がいいんじゃないかなというご意見をいただいているところです。やり方についてはまた創意工夫して、実施していきたいと考えています。
委員長	例えば今後に向けて、セッティング等も住民主体でできたらよりいいのかなと思います。
事務局	今後の予定について、参考資料2に基づき説明。
(各委員からの意見、質疑・応答)	
委員長	3月の初旬か中旬に報告会をやって、この委員会がそのあとに、あるということですね。皆さん方、年度末で大変お忙しいと思いますが、そういうスケジュールということで、引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。
委員長	その他、何か本日の委員会全体を通じてありますでしょうか。

委員	<p>自慢大会に行かせていただいたんですが、子ども会のすごい熱心にやっている意見を聞いて、昨今どんどん子ども会がなくなり、子どものコミュニティの場っていうのがなくなると感じたんですけど、この地域の方は本当にお父さんたちが中心でやってるってことだったので、いいなあと思いました。私は桃の木台に住んでいるので、そういったお祭りのやぐらとかもないため、集まるっていうのはないんですけど、地元の方はやぐらを介してお父さん同士の繋がりがあるというのを感じ、とてもうらやましく思って見ていました。担い手という部分で、自治会もしかり、様々な組織が消滅していく方向にあるのが現状なので、地域まちづくり協議会とか作るのもいいんですが、そういった現状も踏まえてどうすればいいかみたいな、具体的な話をしていけないと駄目だなあと思っています。私も地域で福祉委員をしてるんですが、そこに出てくるお母さんたちも若い人は出てきてはくれるんですけど、例えば町中カフェを平日にやろうとしたら、「私たちは働いているからお手伝いできません」って言われてしまふ。そしたらどうしたらいいですかって聞いたら、「土日に開催してください」って言われる。そういった具体的な案をいただいたので、私たちもこれからは、例えばカフェを土日に開催しようかというような案から、子ども福祉委員が動いてくれて、日曜日にカフェを開催したら、結構人が来ました。やはり子どもがやってるっていうので、子どもがたくさん来てくれて、普段のおじいちゃんおばあちゃんやったら40人ぐらいなのが、子どもがやることによって親と一緒に来て、220人も集まってしまったっていうようなこともあるので、若い層を動かすと若い層が来るんやなって思いました。福祉委員なんかも、私たち年寄りがやってるから年寄りしか来ないんですよ。若いお母さんもお茶飲みに来るってことも、知ってる方は子連れで来てくれますけど、やはり福祉っていうだけで年寄りの行く場みたいに思っている人が多いので、どんどんと若い人が興味を持ちそうな展開、それを地域に巻き込んでいって、その楽しさを知ってもらって、将来の担い手になってもらえるようなことを考えたいと思いますけど、具体案はないです。だからそういうところを皆さんのお知恵をいただいて、やっていけたらなっていうふうに思います。</p>
委員長	<p>土日に変えただけでね、人の集まりが全然違うってということですよ。</p>
委員	<p>子どもが参加してくれると、親がついてくるんですよ。事例としては、駄菓子屋さんに来てもらったら、結構親御さんも一緒に来てくれて、楽しくその場が盛り上がり、高校生が学校で茶道部やから、お茶を立てさせてくださいっていうような案も出たり、かき氷をしたって子供の案も出ました。もう大人やったらカキ氷なんか面倒くさいからやめとこうってなるんですけど、子どもやからやりたいってなって、実際にかき氷の機械を借りてきて、子どもたちがやってくれたんですけど、カキ氷に興味を持ったお年寄りが昔懐かしいって言ってきてくれたりとか、子どもの発想ってすごいんですよ。なので、こういう集まりにもどんどん子どもを招いてやったらどうかなっていうのもあります。大人の目線じゃない子どもの目線で、まちづくりにぜひ子どもも参加させてやって欲しいなと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。最後に副委員長、何かありますか。</p>
副委員長	<p>先ほどから、実はいっぱい阪南市に文化も歴史も担い手も、掘り起こし方次第とか、呼びかけ方次第ではあるんだなあって拝聴しておりまして、それらがうまくつなげていけばいいなと思いました。と、この地域まちづくり協議会の仕組みの図自体が、今おっしゃったような既存の団体の集まりになると、私は関係ないわになってしまうので、もう少し工夫された方がいいんじゃないかなと思いました。</p>
委員長	<p>どうしても役所が作るところという図になってしまうのでね、もう思い切って子供を委員にするとかね、テーマ型にするだとか、結構いいアイデアを今日出ましたんで、ご検討をぜひお願いしたいと思います。</p>
司会	<p>委員長ありがとうございました。 では、以上をもちまして第2回阪南市市民協働推進委員会を閉会とさせていただきます。本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。</p>